

令和5年度 伊那市立春富中学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
理想をめざし、 たくましく 実践する人になろう	1 「社会に生き、幸せを培う拓く学力」の育成 2 「違いと想いを共有し、人権感覚を自ら磨く生徒」の育成 3 「人・地域と関わり、恩を送る意志を持った生徒」の育成
	今年度の重点目標
	(1)「社会に生き、幸せを培う拓く学力」の育成
	(2)「違いと想いを共有し、人権感覚を自ら磨く生徒」の育成
	(3)「人・地域と関わり、恩を送る意志を持った生徒」の育成

総合評価		
学校関係者の皆様から 今行っている内容を充実させ、春富地区の良さをどんどん取り入れてほしい。今年度の実態としては、地域の中で中学生に会う機会が少ないのではないかと感じる。来年度以降の課題および具体的な取り組みとしては、生徒の声を地域の方に、地域の声を生徒に、互いの声を知るために、生徒と地域住民が直接話し合える場があるとよいと思いました。そして、地域住民がそれぞれの役割を認識して連携・協力をしていければよいと思います。		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1) 学校アンケートにおける「学習内容の理解」に関する質問では、生徒の87%が肯定的な回答であった。また、保護者では肯定的な回答が78%であった。家庭学習の時間がやや短い傾向にある。	B b	○4人1グループでの話し合い活動を中心とした、生徒が対話をしながら主体的に学ぶ合う授業づくりを継続して推し進める。 ○ICTを活用しながら、個別最適家庭学習のあり方について実践を積む。
(2) 学校アンケートにおける「差別やいじめを『しない』『させない』」に関する質問では、生徒の94%が肯定的な回答であった。保護者における肯定的な回答は79%であった。生徒と保護者の感覚にやや開きが見られた。	A a	○相談窓口を明確にし、相談体制を充実させる。 ○生徒会が取り組んでいる活動などを、地域や保護者に向けて発信し、理解を深めていただけるよう努める。
(3) 学校アンケートにおける「人や地域との関わり」に関する質問では、生徒・保護者ともに肯定的な回答がほぼ85%となった。コロナ禍に行えなかった活動が徐々に戻ってきており、生徒・保護者ともに達成感が得られた一年となった。	A a	○地域からは、「さらに中学生が地域で活躍する姿を見たい」と願う声も聞かれる。生徒の「生きる力」を育むために、地域との交流活動を継続的に実施し、体験活動を通して、生徒の主体的に判断し行動する資質・能力向上を推進する。

領域	対象	評価項目	評価の観点	
教育活動	教育課程	○「わかる」「楽しい」達成感・成就感のもてる教育課程の展開	○個々の「つける力」「伸ばす力」を明らかにし、計画的に教育課程を実践することができたか。	
		○特色ある教育課程の展開	○「ICTを活用する」から「学習の場面に応じて生徒が主体的にICTを活用し、協働的で対話的な学び合い」となる取り組みが展開できたか。(教科、道特、特別活動、総合的な学習、生徒会等)	
	学習指導	○基礎基本の定着を目指した、「わかる」授業への取り組み	○基礎基本の定着を図るとともに、「わかるようになった」「できるようになった」という実感がもてるような授業ができたか。	
		○相手に伝わる表現力の育成	○仲間の声に耳を傾け、対話を通して自己の考えをまとめ、表現したり発信したりできるようにするために、話し合い活動や伝え合う場面を積極的に授業に取り入れたか。	
	部活動	○心身の健全な発達を図る部活動の実施	○基本的な感染症対策を徹底したか。 ○適正な練習内容・練習時間での活動を実施し、体力の向上や技能の向上が図れたか。	
		○協調性・社会性を醸成する部活動の実施	○集団の一員としてルールを守り、お互い協力し合いながら目標に向かって努力することができたか。	
	生活指導	○問題行動・不登校への対応	○問題行動・不登校への予防的対応に心がけ、安心できる学校・学級づくりに努力したか。 ○生徒理解に基づいた個々の生徒への支援ができたか。	
		○凡事の徹底	○挨拶、清掃、時間等、日常生活での当たり前のことにきちんと取り組めたか。	
	学校運営	安全	○安全意識の向上	○安全教育を通して、安全な通学への心構えや、学校生活に於ける安全意識を向上させることができたか。
			○安全の確保	○基本的な感染症対策を徹底したか。 ○施設のおよび設備の安全点検を実施し、事故防止に努めたか。
地域連携		○学年学級通信、学校だよりを通しての生徒理解	○学級通信や学校だよりによって、積極的に学級や学校での生徒の活動の様子を知らせたか。	
		○地区との交流 ○地域の人材の活用	○地区へ出向いたり、地区の人を招いたりして、交流活動を積極的に行なったか。 ○地域の人材を積極的に活用した授業・学習支援を実施したか。	

成果と課題	評価	改善策・向上策
○5月以降、コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが5類となったことを受け、徐々に教育課程をコロナ禍前に戻すことができた。一方で、コロナ禍において効率化が図れると気づけたことも多々あった。	A a	○生徒の安全を最優先しながら学校教育目標および重点目標を達成するために、保護者、地域との連携を意識しながら、生徒の心身の発達に応じた教育計画を、授業時数と関連させて総合的に魅力ある教育計画をする。
○生徒会活動を中心に年々ICTの活用場面が増え、またクオリティーも向上している。授業にとらわれず、様々な場面で活用できる発想が身につきつつある。	A a	○学校の特色として、引き続き活動を継続していく。 ○教科学習にとらわれず、総合的な学習の時間や生徒会活動等を通して、自分たちから進んで広い世界とつながろうとする意欲が高められる取り組みを展開する。
○前年に引き続き「わかった」「できた」と実感を持っている生徒は高値を示しているが、学力調査等の結果では、他者の意見を聞いたり、長文の内容を理解したりしながら、相手の気持ちになって回答する問題において、やや正答率が低い傾向を示した。	B b	○全国学力・学習状況調査、外部の標準学力調査、校内の定期テストから生徒の学力の定着度を分析し、生徒の理解度、学級の雰囲気等を加味しながら授業のユニバーサルデザイン化を推進する。
○学校アンケートにおける「授業中の対話」に関して、肯定的な回答をした生徒は約66%であった。実践期間が短いことを考慮すれば決して低い数値ではないと考えられるが、教師側の意図や具体的な取り組みが出やすい数値であると推測する。	B b	○4人でのグループ学習を継続し。授業内での生徒どうしの話し合い活動の場面を意図的に増やす。単なる話し合い活動ではなく、生徒の主体的・対話的な深い学びに繋がるグループ学習と授業づくりを次年度も継続させていく。
○感染症対策には十分注意を払いながら活動した。 ○練習時間の見直しを行い、発達段階に応じた適正な活動実施に努めた。生徒の部活動に係るアンケートは、肯定的回答が95%となっており、前年度と同等の評価を得た。	A a	○引き続き感染症対策には配慮する。 ○部活動指導員、外部指導者およびクラブチームと連携し、生徒の発達段階に応じた適正な練習内容の検討と地域移行に向けた取り組みをできるところから行う。
○部活動を行っている生徒保護者の約90%が、部活動に対して意欲的に取り組んでいると考えている。部活動に対する関心が比較的高い地域性もあり、協調性・社会性を醸成する部活動の在り方が今後も望まれている。	A a	○今年度並みに部活動運営委員会を開催し、各部の保護者との情報交換をしながら、地域移行も含めた部活動の在り方について検討していく。
○学校アンケートにおける「いじめや悩みがあったとき誰に相談しますか。」に対しては、「母」が64%、「友人」が62%、次いで「先生」が43%、「父」が42%であった。	B a	○職員と生徒とのより良い関係づくりのために、定期的な生徒相談の時間の設置、生徒が気軽に相談できる体制の整備を試行した。生徒や保護者への周知も含め、次年度も重点活動の一つとする。
○挨拶は、校内だけでなく地域から高い評価をいただいている。アンケートの肯定的回答の割合は生徒が94%と昨年度より2%さらに高くなった。 ○清掃は、生徒アンケートで93%の肯定的回答を得た。	B a	○挨拶は肯定的回答95%以上の維持を目指し、生徒の良さを認める声かけをしながら、地域に信頼される学校づくりに取り組む。 ○生徒会の活動等を通して、生徒の主体的な実践を推進する。
○交通安全教室や、現地交通安全指導等を通して安全意識を高めた。地域から生徒の登下校に係るご指摘をいただいた際には、速やかに臨時集会を開催して、具体的な危険箇所を示しながら注意喚起を行った。	A a	○自転車通学の生徒が多いこともあり、今後も交通安全指導に尽力する。行政の働きかけもあり、より安全な通学路に向けた取り組みが進められている。さらに地域との連携を密にしながら、安全な登下校の実現を図る。
○一年を通して、感染症等による学級閉鎖等を行わなかった。 ○管理場所、遊具、体育設備の点検を毎月実施し、安全な学習環境維持に努めた。	A a	○基本的な感染症対策を引き続き継続させる。 ○施設・管理について、引き続き毎月点検を行い、安全管理の徹底を図る。
○学年通信や学校だよりを定期的に発行し、地域回覧するとともにメールや学校HPによる配信を行った。保護者アンケートでは86%が肯定的な回答であった。紙ベースとの比較では、若干数値が下がった。	A a	○今後も、学年通信、学校だよりを紙ベースではなく電子化にして、メール等を通して確実に保護者に発信していく。 ○保護者に、学校HP閲覧を勧められるよう、内容や更新時期を工夫する。
○ほぼコロナ禍前の活動に戻りつつある。学校アンケートにおける生徒の肯定的な回答は83%、保護者では72%であった。 ○地域からは「もっと中学生とかかわりたい」という要望もいただいた。	A a	○地域との交流、連携は、本校の特色ある教育活動の一つであるので、地域との交流活動や地域の教育力の活用および新規発掘を継続する。 ○行事としての取り組みから、探求的な学びへの変換となる取り組みを模索する。

研 修	○校内研修の実施	○授業改善のために、公開授業や教科内に於ける教科研修を実施したか。	<p>○伊那市 ICT カンファレンスにおいて、全市に向けて授業公開を行った。また、上伊那保健体育研究会においても、斬新な授業を公開した。</p> <p>○授業の振り返りを研究の柱の一つに据え、互いの板書を見合う取り組みを始めた。</p> <p>○各種研修会や授業研究会に参加し、授業力の向上に努めた。春富学区の小中5校の研修会では、佐藤学氏の講演をお聴きし、授業内の協働学習の在り方について研修をした。</p>	A	<p>○次年度も引き続き、教師間の授業参観研修を推奨する。</p> <p>○「対話活動」「ICT活用」「授業の振り返り」を研究の中心に据え、研修を継続する。</p>
	○校外研修への参加	○自己の授業力の向上や生徒指導力の向上のために、校外研修に参加したか。		B	